

723

昭和53年度

事業計画

収支予算書

財団法人 日本常民文化研究所

事業計画

I 民具研究講座

本年は第五回をかぞえ、十年を目標とした半ばの年にあたる。そして会場は武蔵野美術大学（小平市）を選んだ。同大学は宮本常一教授を中心として、民俗学のみでなく、民具学についても収集・整理・展示・作図の各分野について意欲的に整備されつつある。そしてまた民具学について大学においては本校を除いてはまったく取扱われていない。

そこで、まず民具の資料化におけるもつとも基本をなす作図について、同研究室の機能をあげてその普及に協力をあおぎ、民具の計測・作図を本格化しようという意図である。これにより作図の基本がまず決ることが予期されよう。

さらに大事なのは収集である。一般に地域の民俗資料館においては収集の基本的考え方が不十分なままなされているうらみがあり、この点の是正も、展示の見学をすることにより、今後の方向を見出す計画である。

つぎに民具学のばあい、一般的に言つて未だ地域研究が不十分であり、地域研究をふまえることなしにその前進はあり得ず、現状では地域研究事例をより多く提示することが重要となる。今回はその報告および検討を中心として行われる予定である。

II 文化庁委託「小正月行事とモノツクリ」 「富士講と富士塚」

52年度につづく継続事業で、本年度は富士講をのぞいて西日本が調査地域となる。上記の民俗がまだかなり生きている地域として鹿児島県下を中心とする南九州と、奈良県下の両県を対象とすることにした。

富士講については、関東が中心であるから本年は東京都下および神奈川県下の継続と、新たに周辺の信仰形態をみるために、千葉・埼玉県下を対象とした。やはり富士講は江戸を中心としたもので、江戸をはなれるとお山の築造も厳密な儀軌に不十分なものがあり、また年代がより新しくなる傾向がある。両者の比較は信仰の伝播の一つの形態を示すものとして興味ぶかい。

Ⅲ 水産庁委託 漁業制度資料の整備

本事業は昭和24年より30年にわたる6年間にわたる、漁業制度改革をうけた全国の主要漁村地帯における古文書の収集・整理・筆写事業であつた。由来、漁業にあつては漁業権の成立が古く中世に遡るものが少なく、しかもそれらが戦後も生きて行われていたことに特質があり、そうした理解なしには制度改革を進めることが困難であつたからである。そうした上記の期間の筆写史料は250字詰原稿用紙にて、約30万枚に及んだ。

ここ数年来これまであまり省みられることの少なかつた水産業が、地域にとつて一般の関心事となり、また漁業・漁民の歴史についての関心が高まつてきた。これをうけて、上記の漁業制度資料の一種の索引というか、表題目録ではなく、内容目録が必要となつて来た。

昭和53年度収支予算

収入の部		
項目	金額	備考
預金利息	70,000	
株式配当	1,500,000	
出版物売上金	100,000	
補助金	8,600,000	文化庁 水産庁委託
民具マンスリー	1,250,000	
民具研究講座	450,000	
雑収入	60,000	
計	12,030,000	



723

支出の部

項目	区分	予算額	備考
人件費		4,700,000	
会合費		15,000	
旅費交通費		120,000	
消耗品費		400,000	
印刷費		100,000	
通信費		600,000	
共益費		80,000	
水道光熱費		70,000	
資料収集費		160,000	
調査旅費		20,000	
民具マンスリー		1,250,000	
民具研究講座		450,000	
労賃		2,460,000	
公租公課		30,000	
雑費		650,000	
負担金		1,000,000	文化庁委託
計		12,105,000	

7 2 3

